

平成28年度
(通算第5回)

初年次教育部門〈全学日本語教育〉

教育実践・研究発表会

本学では平成22年度から、大学における学修の基盤となる日本語運用力を身につけるため、複数の日本語表現科目を開講しています。このうち、「日本語表現T1」(1年前期開講)は、本学の〈基幹科目〉のひとつに位置づけられ、全学部学生が受講しています。

このたび初年次教育部門〈全学日本語教育〉は、上記科目を核となすライティング指導と、各学部・学科の導入教育ならびに初年次教育との連携に資することを目的とした「教育実践・研究発表会」を開催します。本学学生の日本語運用力や論理的思考力を伸ばすために、いまだのような指導が求められているのか、問題意識を共有する場になれば幸いです。

お気軽に会場まで足をお運び下さい。

日時

平成29年3月6日(月)
14:00~15:50

会場

K1 会議室
長久手キャンパス研究棟 2階

研究発表

学修成果欄からみえる 書くことに対する学生の意識の変化

[発表者] 初年次教育部門講師 小林 珠子

「日本語表現T2」必修化が学修への 取り組みと成績にもたらす影響について

—医療貢献学科言語聴覚学専攻

平成27年度と28年度1年生の成績比較から—

[発表者] 初年次教育部門講師 杉淵 洋一

授業とライティングサポートデスクとの連携

—「国文学特殊講義 言語学」でのレポート課題—

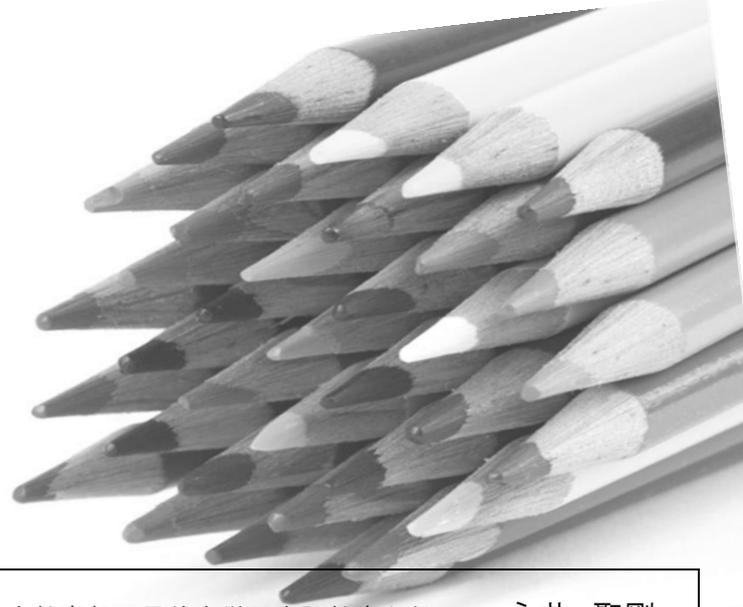
[発表者] 初年次教育部門講師 久保田一充

*発表会終了後、情報交換会(茶話会)を予定しています。

問い合わせ先

初年次教育部門 担当：外山敦子
内線〈長久手〉2321 / atoyama@asu.aasa.ac.jp

プログラム及び発表概要



14:00	主催者あいさつ 初年次教育部門長兼全学日本語教育主任 永井 聖剛
14:10	学修成果欄からみえる書くことに対する学生の意識の変化 初年次教育部門講師 小林 珠子
14:40	【概要】 「日本語表現 T1」で学生が課題作成に使用する提出用紙には、「学修成果欄」が設けられている。学生は課題に取り組んだ後、振り返りとして「学修成果欄」に修得できたこと、できなかったことなどを記入する。「学修成果欄」に注目することで、学生が他人の文章を読む際や、自ら文章を書く際にどのような点に意識を向けているかを確認することができる。 本発表では、学生が小論文の相互添削を行う第 7、10、13 回の講義の際に記入した「学修成果欄」を取り上げる。そして、3 回の小論文執筆を通して、学生の書くことに対する意識の変化にどのような傾向がみられるのか、また、今後の課題について考察し報告する。
14:45	「日本語表現 T2」必修化が学修への取り組みと成績にもたらす影響について —医療貢献学科言語聴覚学専攻平成 27 年度と 28 年度 1 年生の成績比較から— 初年次教育部門講師 杉淵 洋一
15:15	【概要】 平成 28 年度、健康医療学部医療貢献学科言語聴覚学専攻の「日本語表現 T2」(1年後期開講/学科専攻別に必修または選択)が必修化された。この機会を利用して、私が「日本語表現 T1」、「T2」の授業を担当した当該専攻の平成 27 年度と平成 28 年度1年生の「日本語表現 T2」の成績を、複合的な視点から比較検討することによって、「T2」授業の必修化が、学生の成績や授業そのものの取り組みに与える影響や、そこから浮かび上がる課題等について考察を試みたい。
15:20	授業とライティングサポートデスクとの連携 —「国文学特殊講義 言語学」でのレポート課題— 初年次教育部門講師 久保田一充
15:50	【概要】 発表者の担当する文学部国文学科専門教育科目「国文学特殊講義 言語学」(2年/選択)の授業では、レポートを 1 本課している。受講生は、最終稿提出までに、概要と初稿の段階で教員からのフィードバックがあり、初稿の段階で複数のピアからのフィードバックが得られる。しかし、もちろんどちらの指摘もレポートの質向上に一定の効果はあるだろうが、前者は一方的であるので、教員の意図が十分に理解されているかが確認できず、後者は玉石混淆であるので、本質的な改善にはつながらない可能性もある。このような「熟練者との対話の欠如」を補うため、本授業はライティングサポートデスクに連携を申請し、受講生に利用を促した。本発表では、この連携の結果を報告する。受講生の文章の変化を分析することで、連携の効果を確認する。
16:00 ~	情報交換会(茶話会)

※ 発表資料のみご入用の方は、外山敦子(内線〈長久手〉2321/atoyama@asu.aasa.ac.jp)までご連絡ください。